

# 志木市高齢者等実態調査結果①

(医療介護連携部分のみ抜粋)

調査概要 . . . . . P 1

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（市民） . . . . P 4

## ◆調査概要

### 1. 調査実施の目的

本調査は、志木市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の改定（第8期計画の策定）を行うにあたり、円滑な計画作成に資するため、各種支援及び関連する業務について、市民の意識・ニーズ等の実態調査を行ったものです。

### 2. 実施方法及び実施時期

実施方法：返信用封筒を同封のうえ、アンケート調査票を郵送配布、郵送回収

実施時期：【発送】令和2年2月19日（水） 【回収】令和2年3月4日（水）

### 3. 調査方法と回収状況

#### ※在宅医療介護や医療介護連携に関するアンケートを実施した調査のみ記載

#### （1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（高齢者に関するアンケート調査）

本調査は、市内在住の65歳以上の方（要介護1～5の方を除く）のうち、3,000人（1圏域600人）を対象として、高齢者の生活実態や生活支援ニーズなどの状況について把握し、今後の高齢者等支援施策の検討に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
高齢者に関するアンケート調査	3,000	1,743	58.1%

#### （2）ケアマネジャー実態調査

本調査は、本市の被保険者を担当している52の介護サービス提供事業所に所属する介護支援専門員（ケアマネジャー）を対象として、介護サービスの利用実態や本市に不足している介護サービス・高齢者サービスに関するご意見・ご要望などについて把握し、今後の介護サービス及び高齢者サービスの充実に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
ケアマネジャー実態調査（個人）	156	80	51.3%

#### （3）介護サービス事業所調査

本調査は、市内で介護サービスを提供されている60事業所（うち、在宅系40事業所、施設・居宅20事業所）を対象として、サービスの利用実態や事業所の運営に関する状況等を把握し、今後の高齢者福祉行政のあり方等の検討に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
介護サービス事業所調査（全体）	60	39	65.0%
介護サービス事業所調査（在宅系）	40	24	60.0%
介護サービス事業所調査（施設・居宅系）	20	15	75.0%

## 4. 留意点

- ・回答者数について

図表中の「n」（Number of Casesの略）は、比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者数に相当するかを示している。

- ・図表の単位について

本報告書に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り「%」（回答率）を表している。また、回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならない場合がある。また、「-」は回答者なし、「0.0」は四捨五入の結果0.0との表記になっている。

- ・図表における選択肢等の記載について

図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

- ・単純集計について

単純集計のグラフにおいては、傾向をより分かりやすくするために、選択肢を回答率（%）の高いものから低いものへと並び換えて表示している場合がある。

- ・クロス集計について

クロス結果の帯グラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。

- ・コメントについて

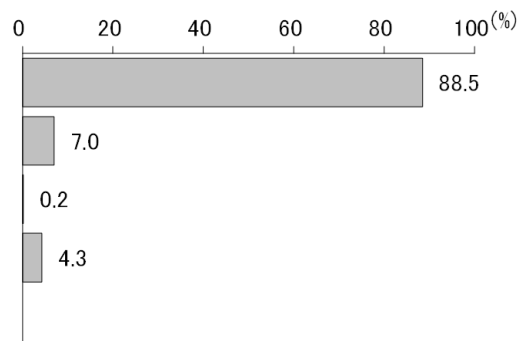
分岐のある設問の対象者、あるいはクロス集計の属性等によってnが少なくなる場合がある。nが少ない場合、1人の回答がその属性全体の結果に大きく影響するため、定量的には適切な分析をすることが難しい。このため本報告書では分析軸の項目のうちnが30未満（事業所調査は10未満）と少ない場合、参考値としてコメントで触れていないことがある。

# 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（市民）

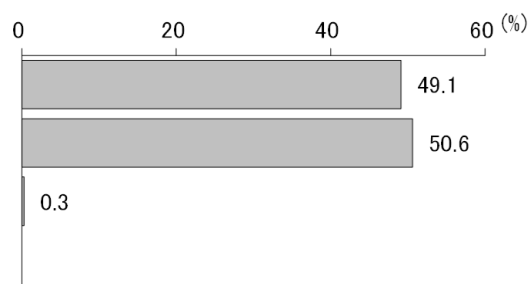
## 1. 基本属性

### （1）家族構成

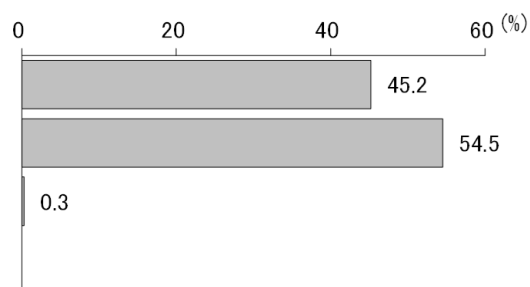
	基数	構成比
あて名のご本人が記入	1,542	88.5%
ご家族が記入	122	7.0%
その他	4	0.2%
無回答	75	4.3%
全 体	1,743	100.0%



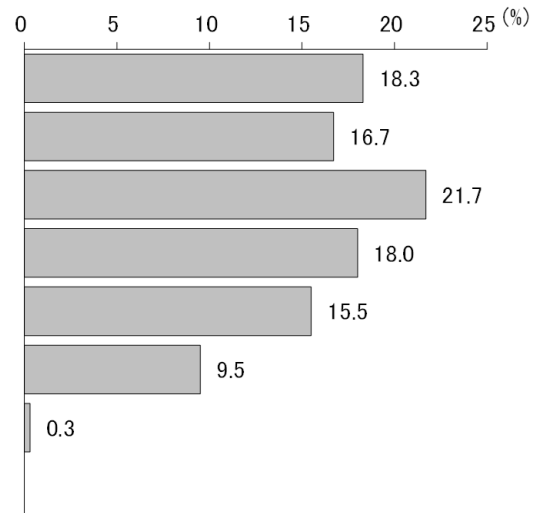
	基数	構成比
男性	856	49.1%
女性	882	50.6%
無回答	5	0.3%
全 体	1,743	100.0%



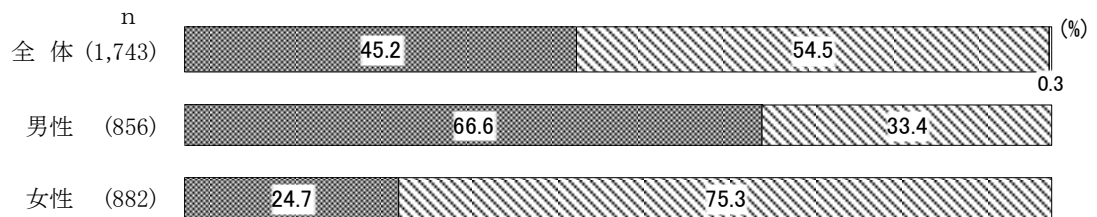
	基数	構成比
前期高齢者(65歳から74歳)	788	45.2%
後期高齢者(75歳以上)	950	54.5%
無回答	5	0.3%
全 体	1,743	100.0%



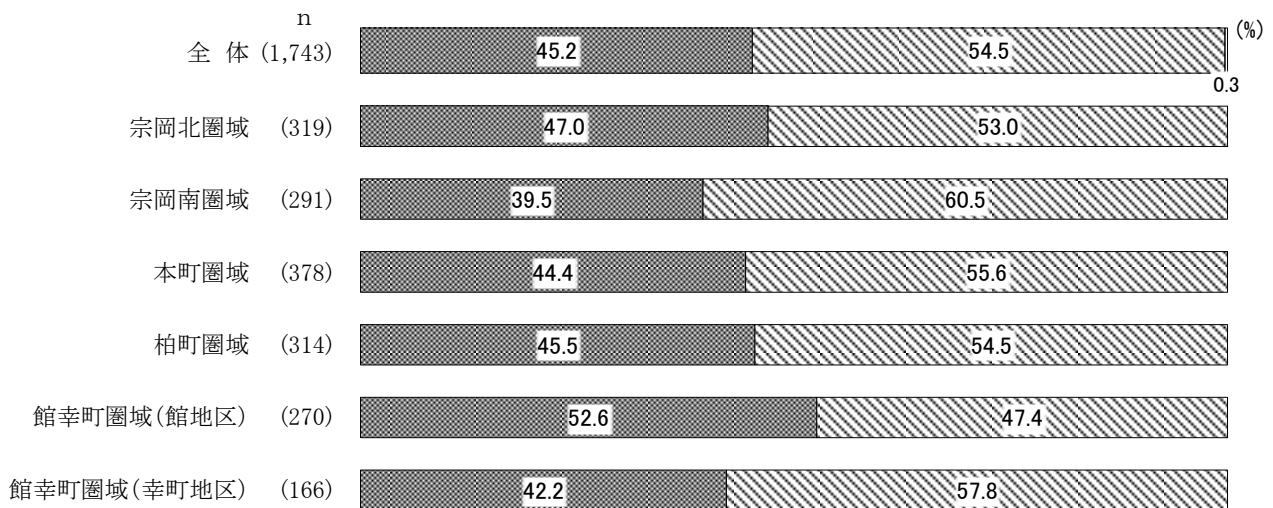
	基数	構成比
宗岡北圏域	319	18.3%
宗岡南圏域	291	16.7%
本町圏域	378	21.7%
柏町圏域	314	18.0%
館幸町圏域(館地区)	270	15.5%
館幸町圏域(幸町地区)	166	9.5%
無回答	5	0.3%
全 体	1,743	100.0%



■ 前期高齢者(65歳から74歳) □ 後期高齢者(75歳以上) □ 無回答



■ 前期高齢者(65歳から74歳) □ 後期高齢者(75歳以上) □ 無回答



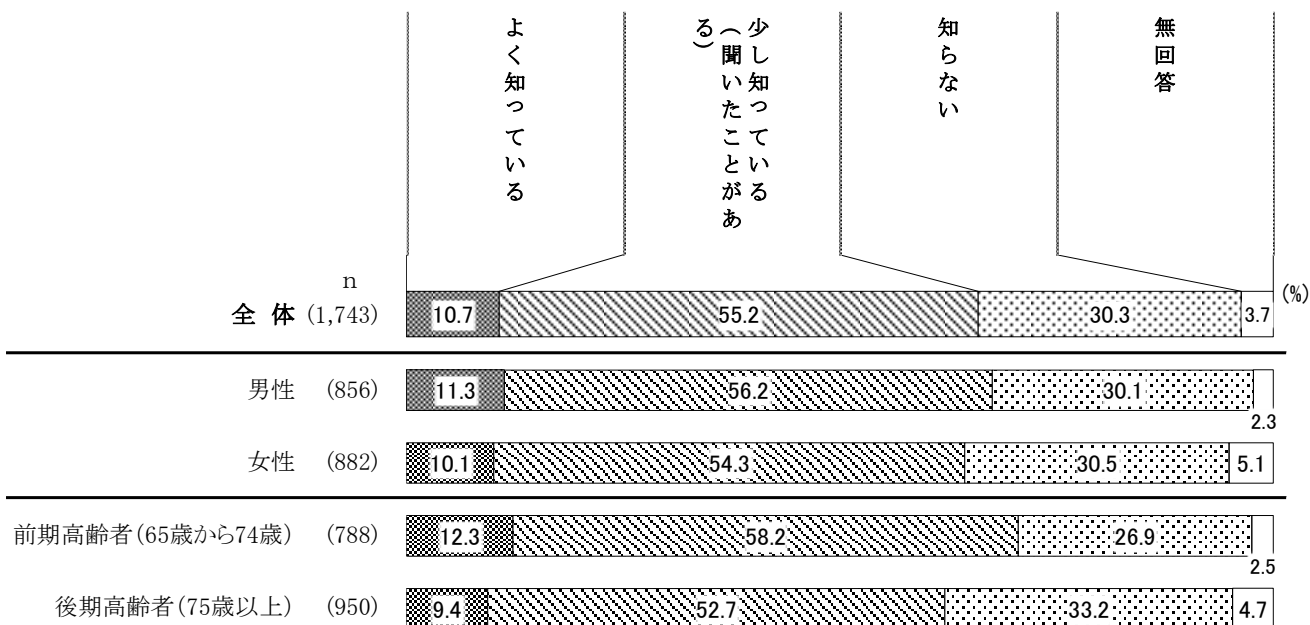
# 1 在宅医療・介護について

## (1) 「在宅医療」について知っているか

問9 (1) 「在宅医療（訪問医療や訪問看護）」とは、医師のほか、訪問看護師や薬剤師、理学療法士（リハビリ）等の関係者が、患者さんの自宅や入所施設などに定期的に訪問して医療を行うことですが、あなたは「在宅医療」について知っていますか。  
 [〇は1つだけ]

「在宅医療」について知っているかについて聞いたところ、「少し知っている（聞いたことがある）」（55.2%）が最も高かった。以下、「知らない」（30.3%）、「よく知っている」（10.7%）となっている。性別で見ると、大きな差は見られなかった。

年齢別で見ると、「知らない」については後期高齢者（33.2%）が前期高齢者（26.9%）より6.3ポイント高くなっている。

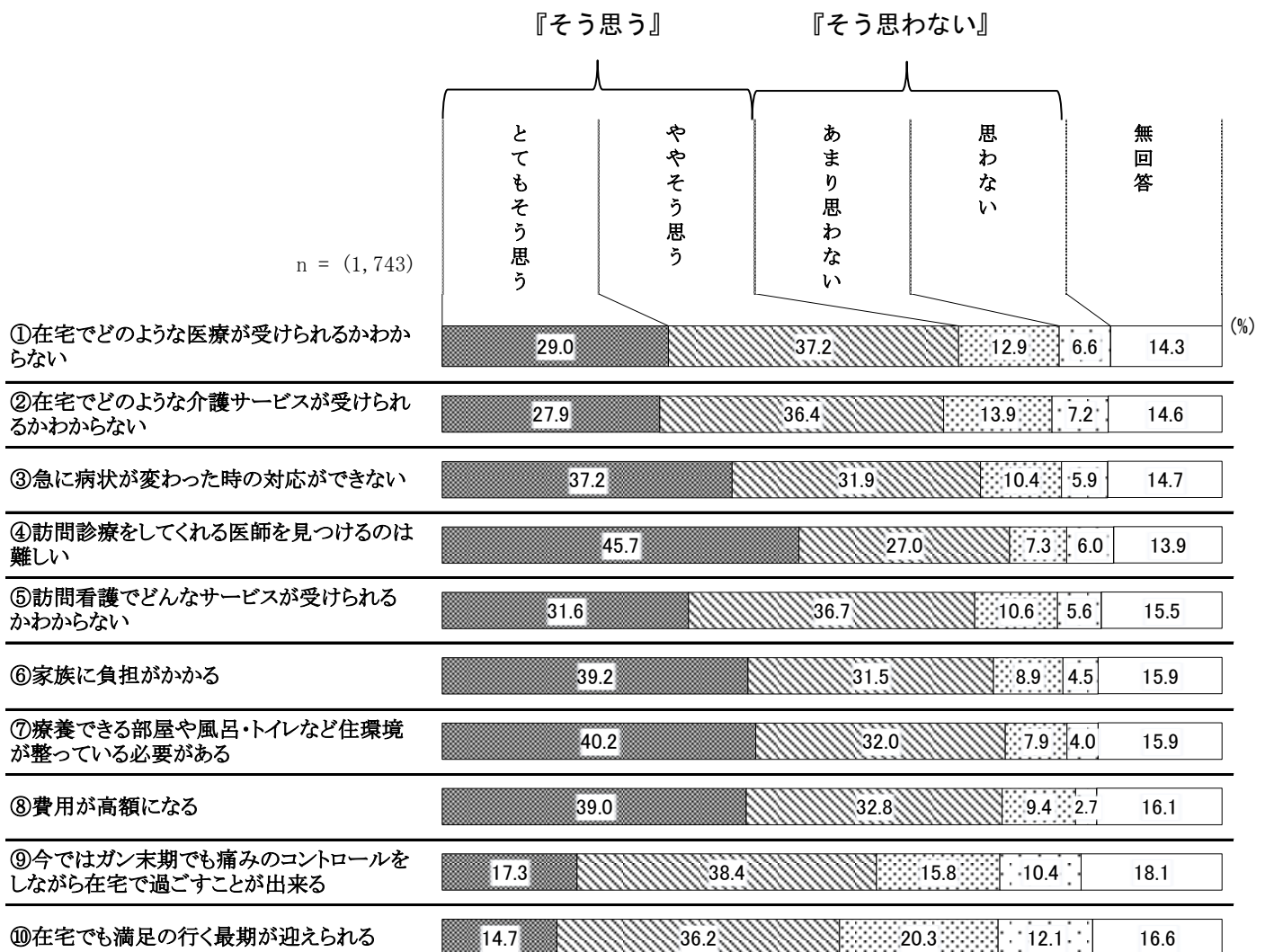


## (2) 在宅医療・介護を受けることについてのイメージ

問9 (2) 在宅医療・介護を受けることについてどのようなイメージをお持ちですか。

※①～⑩それぞれに回答してください。[○はそれぞれに1つ]

在宅医療・介護を受けることについてのイメージについて聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した割合が高い項目については、「訪問診療をしてくれる医師を見つけるのは難しい」(72.7%)、「療養できる部屋や風呂・トイレなど住環境が整っている必要がある」(72.2%)、「費用が高額になる」(71.8%)となっている。一方、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『そう思わない』と回答した割合が高い項目については、「在宅でも満足の行く最期を迎えられる」(32.4%)、「今ではガン末期でも痛みのコントロールをしながら在宅で過ごすことができる」(26.2%)、「在宅でどのような介護サービスが受けられるかわからない」(21.1%)となっている。



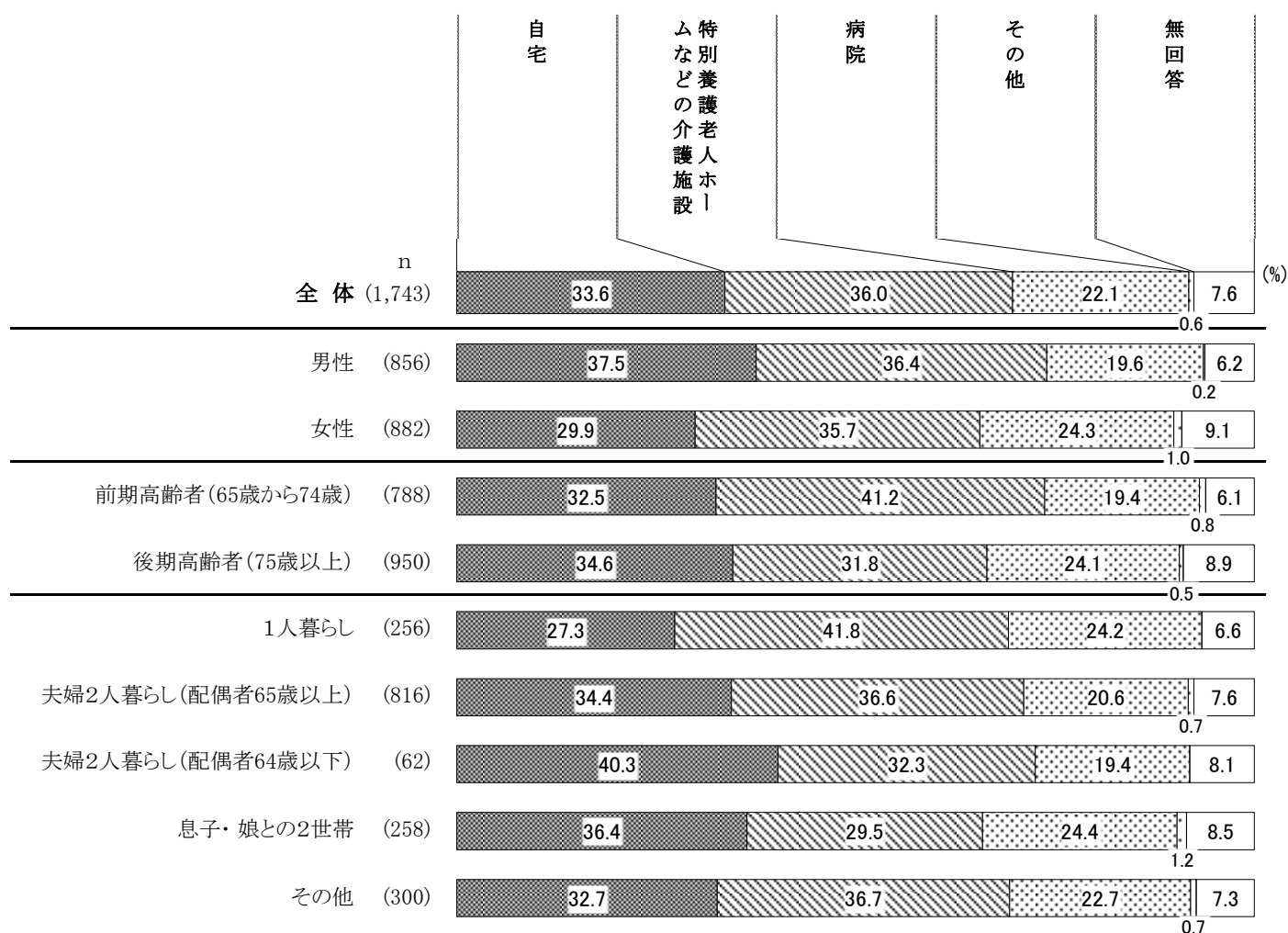
### (3) 長期の療養が必要になった時、主に過ごしたい場所

問9 (3) あなたが要介護状態などで長期の療養が必要になった時、主にどこで過ごしたいですか。[○は1つだけ]

長期の療養が必要になった時、主に過ごしたい場所について聞いたところ、「特別養護老人ホームなどの介護施設」(36.0%)が最も高かった。以下、「自宅」(33.6%)、「病院」(22.1%)となっている。性別でみると、「自宅」については男性(37.5%)が女性(29.9%)より7.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「特別養護老人ホームなどの介護施設」については前期高齢者(41.2%)が後期高齢者(31.8%)より9.4ポイント高くなっている。

家族構成別でみると、「特別養護老人ホームなどの介護施設」については1人暮らし(41.8%)が全体に比べて高くなっている。また、「自宅」については夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(40.3%)が全体に比べて高くなっている。



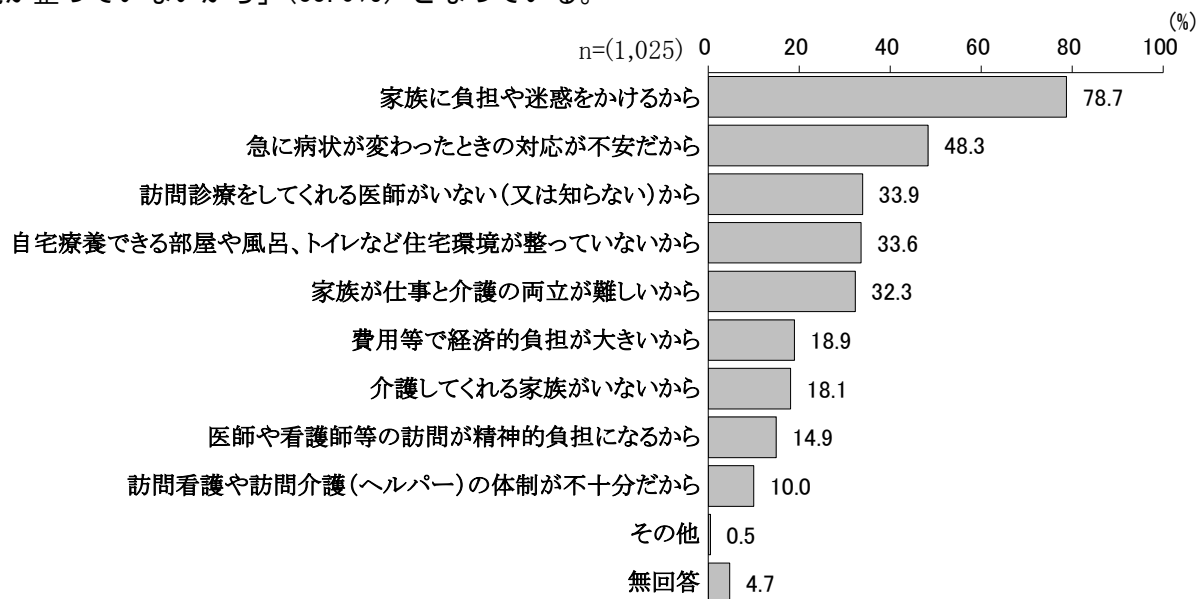


#### (4) 「自宅」以外を選択した理由

【問9(3)で「1. 自宅」以外を選択された方のみ。】

問9(3)①「1. 自宅」以外を選択された理由は何ですか。[○はいくつでも]

「自宅」以外を選択した理由について聞いたところ、「家族に負担や迷惑をかけるから」(78.7%)が最も高かった。以下、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(48.3%)、「訪問診療をしてくれる医師がいない(又は知らない)から」(33.9%)、「自宅療養できる部屋や風呂、トイレなど住宅環境が整っていないから」(33.6%)となっている。



### (5) 家族が長期の療養が必要になった時、主に過ごしてもらいたい場所

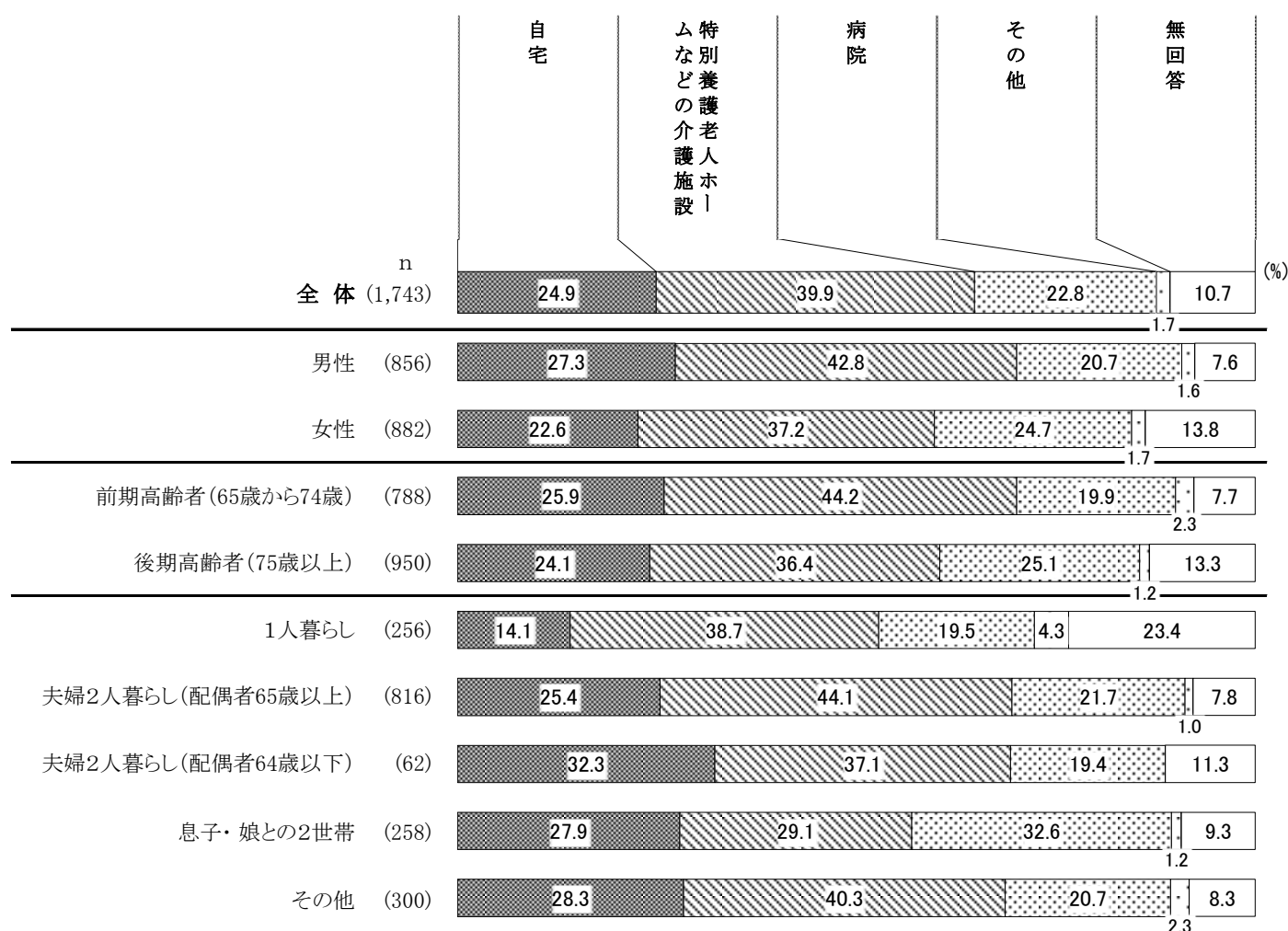
問9 (4) あなたの家族が、要介護状態などで長期の療養が必要になった時、主にどこで過ごしてもらいたいですか。[〇は1つだけ]

家族が長期の療養が必要になった時、主に過ごしてもらいたい場所について聞いたところ、「特別養護老人ホームなどの介護施設」(39.9%)が最も高かった。以下、「自宅」(24.9%)、「病院」(22.8%)となっている。

性別で見ると、「特別養護老人ホームなどの介護施設」については男性(42.8%)が女性(37.2%)より5.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「特別養護老人ホームなどの介護施設」については前期高齢者(44.2%)が後期高齢者(36.4%)より7.8ポイント高くなっている。一方、「病院」については後期高齢者(25.1%)が前期高齢者(19.9%)より5.2ポイント高くなっている

家族構成別で見ると、「病院」については息子・娘との二世帯(32.6%)が全体に比べて高くなっている。一方、「自宅」については夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(32.3%)が全体に比べて高くなっている。



(6) 人生の最期を迎えようとする時、最期を迎えたい場所

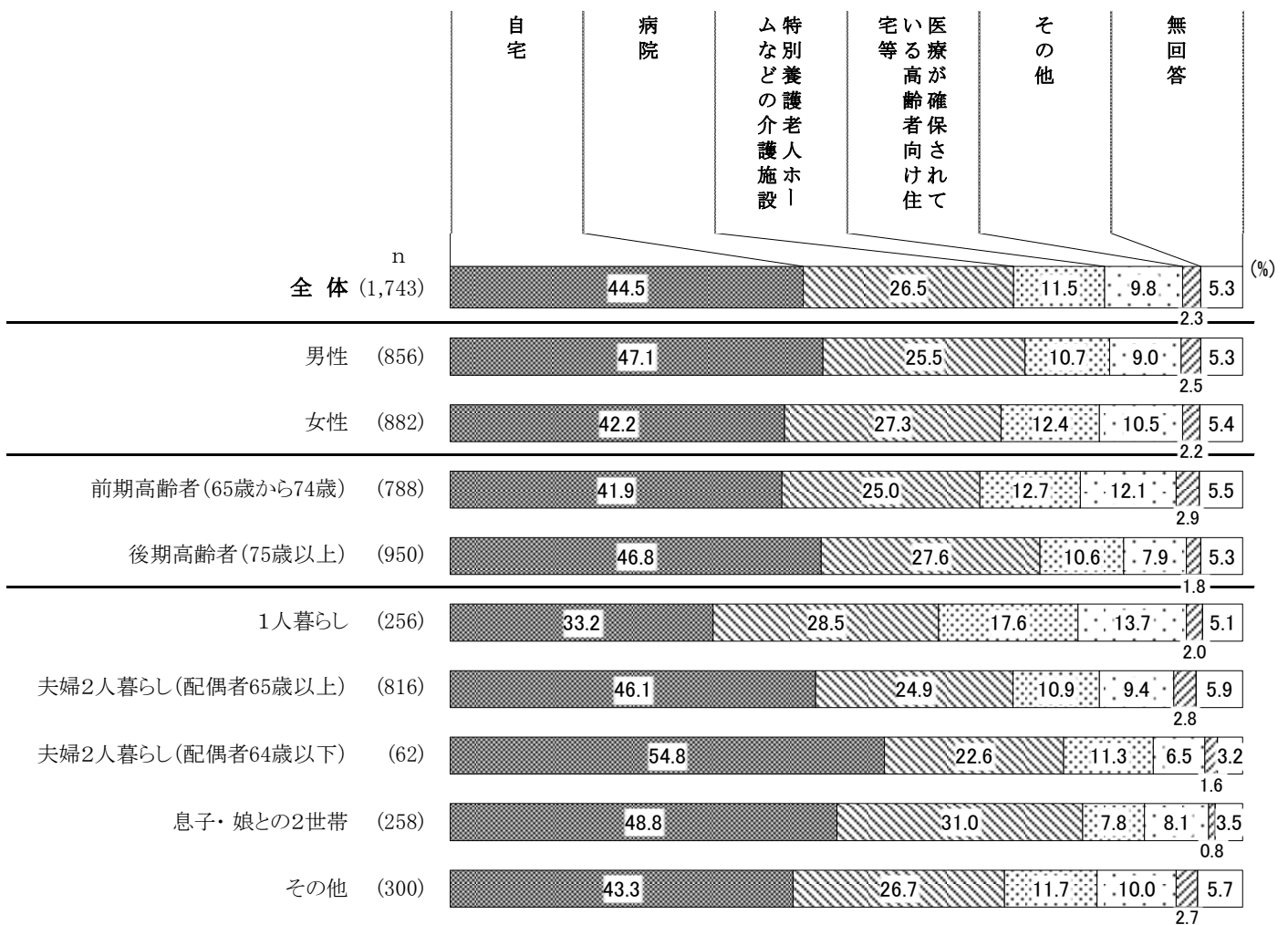
問9 (5) あなたが人生の最期を迎えようとする時、どこで最期を迎えたいですか。  
[〇は1つだけ]

人生の最期を迎えようとする時、最期を迎えたい場所について聞いたところ、「自宅」(44.5%)が最も高かった。以下、「病院」(26.5%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設」(11.5%)、「医療が確保されている高齢者向け住宅等」(9.8%)となっている。

性別で見ると、大きな差は見られなかった。

年齢別で見ると、大きな差は見られなかった。

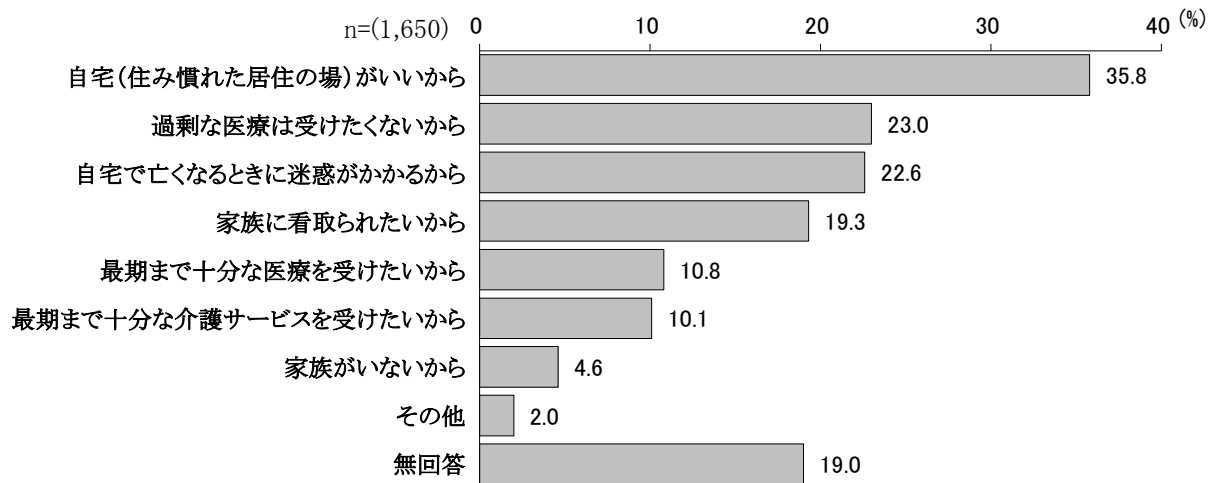
家族構成別で見ると、「自宅」については夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(54.8%)が全体に比べて高くなっている。一方、「特別養護老人ホームなどの介護施設」については1人暮らし(17.6%)が全体に比べて高くなっている。



### (7) 問9(5)で選択した理由

問9(6) 問9(5)で選択した理由は何ですか。[〇はいくつでも]

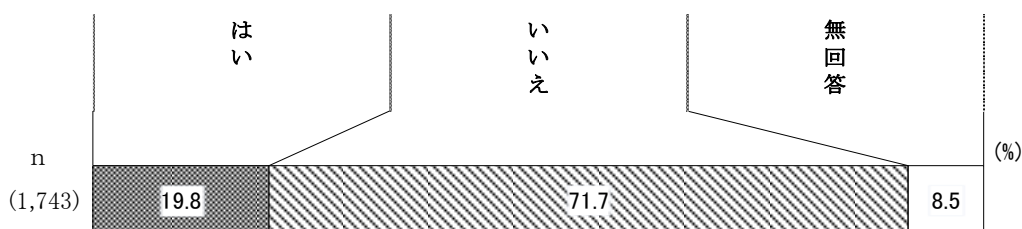
問9(5)で選択した理由について聞いたところ、「自宅(住み慣れた居住の場)がいいから」(35.8%)が最も高かった。以下、「過剰な医療は受けたくないから」(23.0%)、「自宅で亡くなる時に迷惑がかかるから」(22.6%)、「家族に看取られたいから」(19.3%)となっている。



(8) 人生の最期を迎えようとするときに備えて行っている準備があるか

問9 (7) あなたが人生の最期を迎えようとするときに備えて、今から何か準備をしていますか。[○は1つだけ]

人生の最期を迎えようとするときに備えて行っている準備があるかについて聞いたところ、「いいえ」が71.7%を占めていた。一方、「はい」は19.8%となっている。



(9) どのような準備をしているか

【問9 (7) で「1. はい」を選択した方のみ。】  
問9 (7) ①どのようなことをしていますか。[自由記載]

取り組み	件数
身の整理・身の回りの片づけ	86
遺言・エンディングノート	74
保険・遺産・相続などお金の手続き	71
自身の葬儀や墓の準備	44
延命処置に対する意思表示	12
その他	44

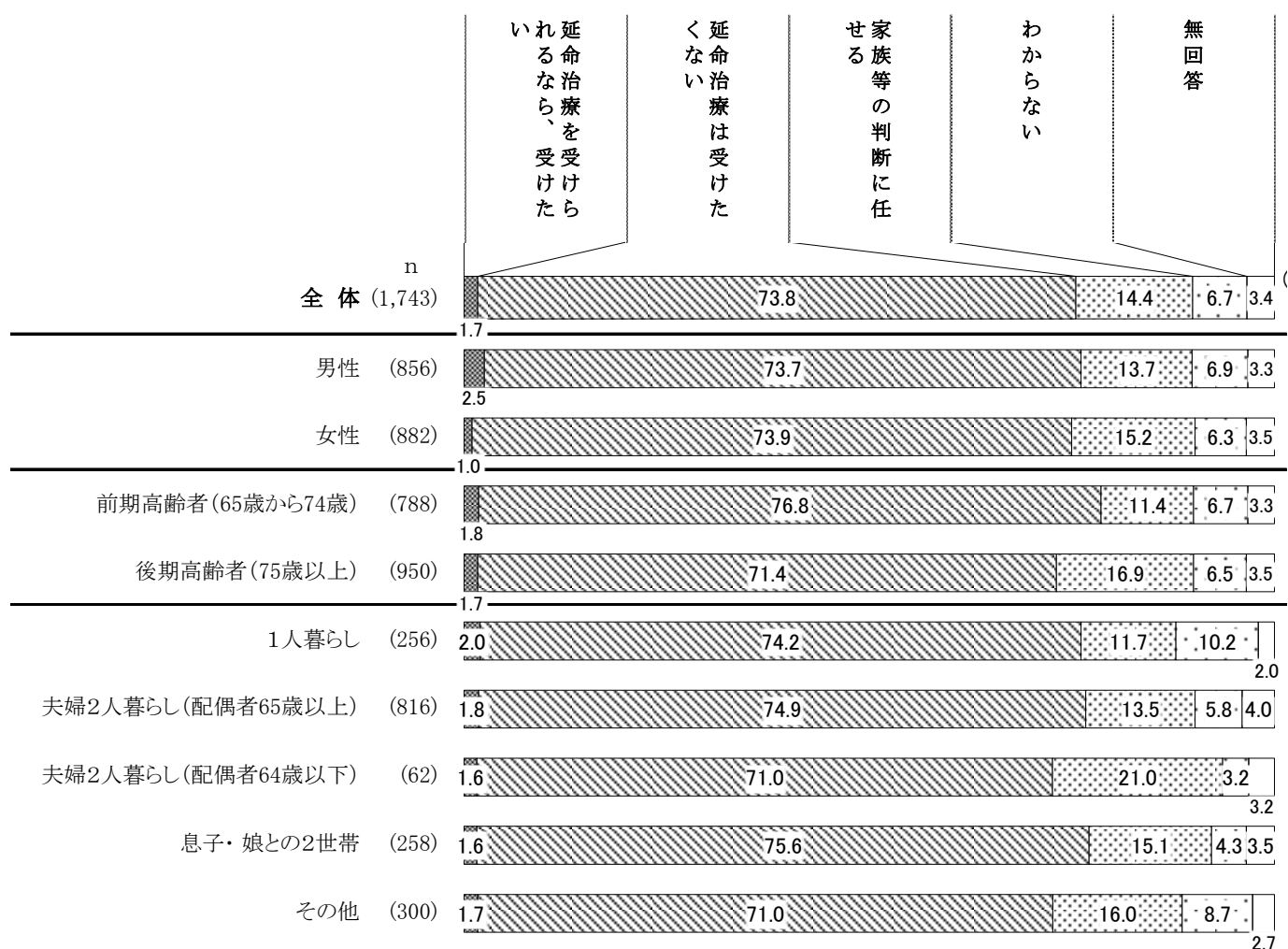
## (10) 終末期医療

問9 (8) あなたは、終末期医療についてどう思いますか。[〇は1つだけ]

終末期医療について聞いたところ、「延命治療は受けたくない」(73.8%)が最も高かった。以下、「家族等の判断に任せる」(14.4%)、「延命治療を受けられるなら、受けたい」(1.7%)となっている。性別でみると、大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、「延命治療は受けたくない」については前期高齢者(76.8%)が後期高齢者(71.4%)より5.4ポイント高くなっている。一方、「家族等の判断に任せる」については後期高齢者(16.9%)が前期高齢者(11.4%)より5.5ポイント高くなっている。

家族構成別でみると、「家族等の判断に任せる」については夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(21.0%)が全体に比べて高くなっている

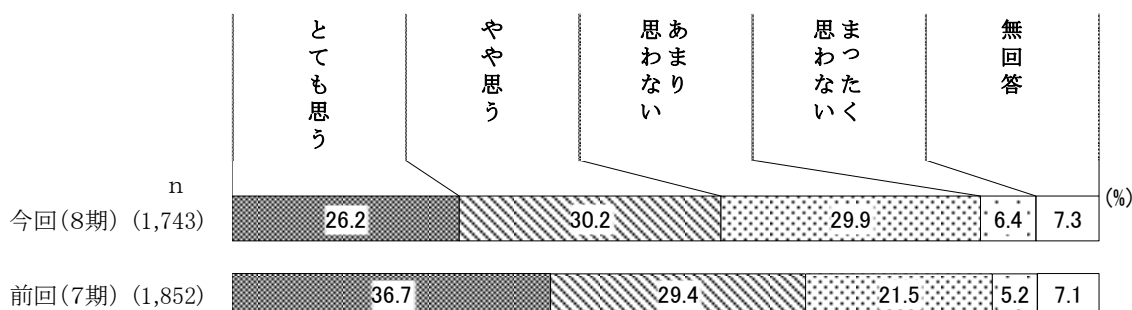


(11) 老衰や後遺症等で通院が困難になった場合も病院に入院せず、自宅で療養できる体制を地域全体で進めていくべきだと思うか

問9 (9) 老衰や後遺症等で通院が困難になった場合も病院に入院せず、自宅で療養できる体制を地域全体で進めていくべきだと思いますか。[○は1つだけ]

老衰や後遺症等で通院が困難になった場合も病院に入院せず、自宅で療養できる体制を地域全体で進めていくべきだと思うかについて聞いたところ、「やや思う」(30.2%)が最も高かった。以下、「あまり思わない」(29.9%)、「まったく思わない」(6.4%)となっている。

前回調査と比べると、「あまり思わない」は8.4ポイント高くなっている。一方、「とても思う」は10.5ポイント低くなっている。

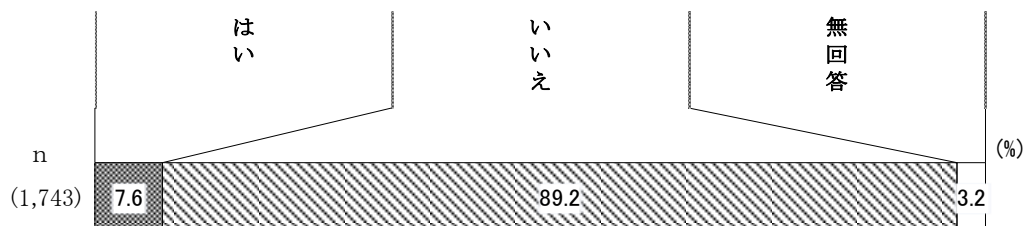


## 2 認知症にかかる相談窓口の把握について

### (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

問8 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。  
[○は1つだけ]

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについて聞いたところ、「いいえ」が89.2%を占めていた。一方、「はい」は7.6%であった。



### 2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

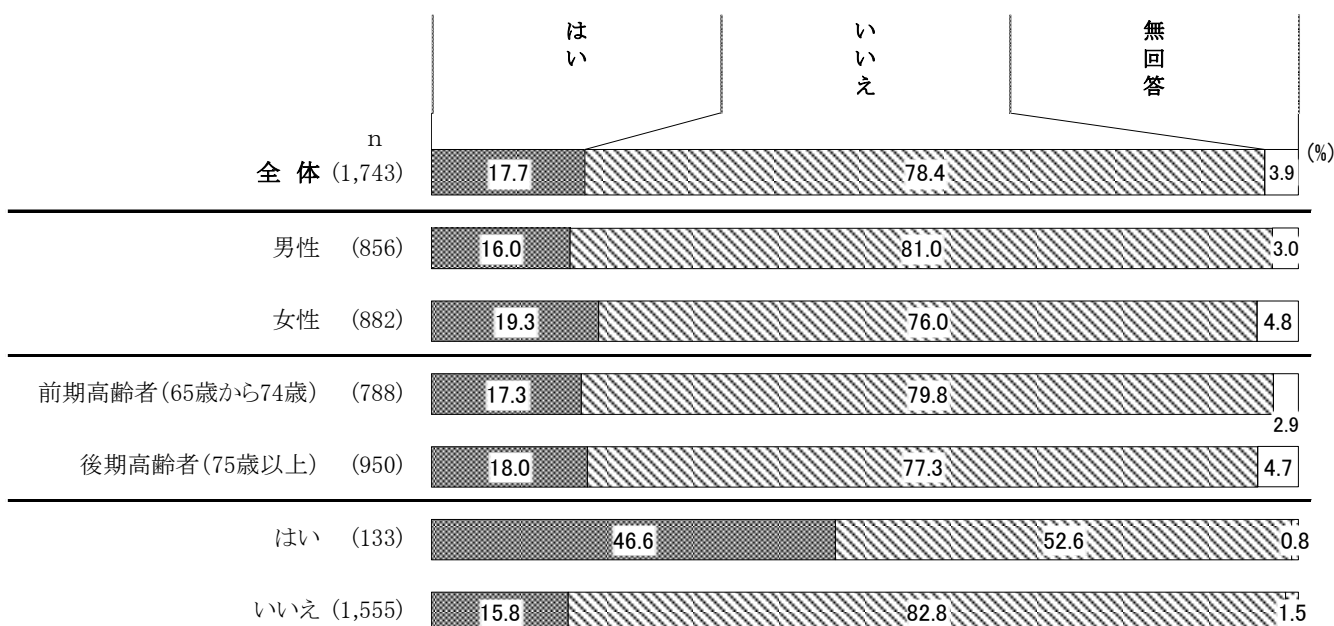
問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。[○は1つだけ]

認知症に関する相談窓口を知っているかについて聞いたところ、「いいえ」が78.4%を占めていた。一方、「はい」は17.7%となっている。

性別で見ると、「いいえ」については男性(81.0%)が女性(76.0%)より5.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、大きな差は見られなかった。

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか別で見ると、はいと回答した人のうち、認知症に関する相談窓口を知っている人は46.6%となっている。





(3) 知っている相談相談窓口

【問8(2)で「1. はい」と答えた方のみ。】

問8(3)それはどこですか。

相談窓口	件数
地域包括支援センター（高齢者あんしん相談センター）	131
医療機関	61
市役所	58
介護施設、介護職員	23
家族、友人	4
その他	8